

インターネットと冊子体目録から得られる韓国語文献情報（特集 途上国研究のための研究ツール -- 新・旧書誌情報を活用する）

著者	狩野 修二
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	150
ページ	4-5
発行年	2008-03
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00005041

インターネットと冊子体目録から得られる韓国語文献情報

狩野修二

特集／途上国研究のための研究ツール—新・旧書誌情報を活用する

文献情報を探す際のツールとしてインターネットはすでに不動の位置を確立している。大学や研究機関はそれぞれが所蔵する資料を中心にデータベースを構築し、資料の検索は以前よりも容易になった。また韓国の政府系機関では、文献情報だけでなく、本文にまで無料でアクセスできるものも見受けられる。一方、従来研究ツールとして欠かせなかった冊子体の書誌や目録はインターネット上のツールに取って代わられつつある。確かに所蔵目録については各機関のOPAC等を通じての検索の方が便利であり、いまや冊子体の所蔵目録を作成する機関はあまりない。しかし特定の冊子体目録、例えば主題目録や主題書誌などはインターネット上のツールを補充する有用な資料であると思われる。

本稿では、韓国語の文献情報を調べる際に有用であると思われる韓国のサイトとアジア経済研究所の所蔵する冊子体目録をいくつか紹介しながら、それぞれの特徴を概観していきたいと思う。

●インターネット上の文献情報

インターネットで韓国語の資料を探す際にまず挙げられるのが、韓国教育学術情報院(KERIS)のRIS (Research Information Service System) とある(<http://www.ris.keri.ac.kr/>)。RISでは学術論文検索、学位論文検索、図書検索、学術誌検索は韓国国内約三〇〇の大学図書館が所蔵する資料を検索することができる。また論文については、会員登録をすれば、本文まで閲覧できるようにしている。基本的に有料のものが多いが、中には無料で見られるものもある。しかし会員登録する際に、携帯電話の番号が必須項目となっており、この番号が韓国で使えるものでないと受け付けてくれないため、日本からの登録は難しくなっているのが問題点である。

国立中央図書館では「原文データベース」(<http://www.library.go.kr/WONMIL/index.do>)で、資料を電子化し原文で提供しており、著作権の消滅したものや許諾を受けたものについては無料で公開している。データベースは古書、一九四五年以前の官報、図書、戦前の日本語資料など一八のデータ

ベースを構築している。学術論文記事データベースは民間会社が構築した約一七〇〇の学術誌の記事と本文を検索することができる。本文はビューアをダウンロードして使用するのだが、日本語環境のコンピュータだと文字化けしてしまうようである。

国会図書館(<http://www.nac.go.kr/dl/SearchIndex.php>)では国会図書館が所蔵している一九四五年以降国内で刊行された定期刊行物について、学術的に価値があると判断された記事約一七五万件を索引化している。特に社会科学分野の論文については電子化をし、本文約三五万件を提供している。またそのほかにも約一万九〇〇〇件の政府刊行物を電子化したデータベースなど九種類を提供している。

国家電子図書館(<http://www.library.go.jp/>)は、前述の国立中央図書館や国会図書館をはじめ、八機関七〇種のデータベースを提供し、かつ統合検索を行うことができる。これらデータベースは各機関が所蔵する特徴ある資料を中心に構築されており、多くは本文が参照できるようにしている。政府刊行物や修士・博士論文、著作権の消滅

あるいは許諾を得た図書、古書、一九四五年以前の日本語資料、判例など提供する資料は様々である。本文情報の参照には有料のものや無料のものがある。ただし文字化けを起こしてうまく見られない場合もあるのは問題点である。

また学術論文については、有料データベースを活用することもできる。韓国学術情報(KSI)が提供する学術・学位論文データベース(<http://www.papersearch.net>)は、約一二〇〇ある学会、研究所の発行する学会誌、研究刊行物の論文を創刊号から最新号まで、約九〇万件検索することができる。有料の本文のほか無料の論文が約二五万件あり、無料の論文については会員登録をすれば閲覧が可能である。

DBpia (<http://www.dbpia.co.kr/>)も有料データベースだが、抄録までは無料で検索、閲覧することができる。韓国国内の四七九の学会、研究機関、出版社が発行する九二三種の刊行物の六三万件の論文を提供するデータベースである。

また研究所や学会などの出版物の場合、その機関のサイトで原文まで見ることができ、することもある。例えば、対外経済政策研究院では「発刊資料」の項目から書名や雑誌名を選択し、「原文」あるいは論文名をクリックすると対象資料の全文がPDFで表示される。

●冊子体の文献情報

次に冊子体のものをいくつか紹介したい。ここで取り上げるものは、ある特定のテーマについての資料を集めた主題書誌である。収録される資料の発行時期が限定されるといふ欠点があるものの、主要な文献についてまとめて収録されているので、そのテーマについて調べたい時にはインターネットであちこち調べるよりも便利であると思われる。

野田美代子編『南北韓統一問題と北東アジアの国際関係文献目録』(日本貿易振興機構アジア経済研究所、二〇〇一年)は、一九七〇年から一九九九年前後に発行された南北韓統一問題と北東アジアの国際関係に関する韓国語文献約二三〇〇点を収録している。

また『朴正熙大統領閣下公報関係資料総目録』(大統領秘書室、一九七七年)は、一九六一年五月一九日から一九七六年二月三日までの朴正熙に関する演説文、出版、発表文、報道記事、テレビ放送などの記録が収録されており、またそれら資料の所在も明記されている。

『中国朝鮮文図書総目録一九四七—一九九二』(延边人民出版社、二〇〇一年)は、一九四七年から一九九一年までに中国国内で刊行された朝鮮文図書の総目録であり、当地の出版事情を知ることができる。

最近出版されたものでは『韓国民主化運動資料目録集』(国史編纂委員会、二〇〇五年)があり、二〇〇一年から二〇〇四年

八月までに国史編纂委員会が収集した韓国民主化運動に関する報告書、論文、備忘録、手紙、ビラ、図書などが収録されている。

インターネット上のツールで得られる情報は、各機関が所蔵している資料やデータをもとに作成されているものが多い。研究者が自分の研究テーマについて、文献データを収集しデータベースとして公開している例もあるが、機関が作成しているものはまだあまりないと思われる。必ずしも目的とするテーマの目録が刊行されているとは限らないが、主要文献を網羅的に収録している冊子体目録は決して過去のツールではなく、現在でも有効に活用できると思われる。

(かのう しゅうじ／アジア経済研究所 図書館)